



## 離型性能を有する治工具（カウルプレート）

熱可塑性 CFRP、熱可塑性樹脂の離型性能評価

技術分野分類 5903：複合材料・表界面工学

技術キーワード 機能性複合材料

産業分類 E-18：プラスチック製品製造業

内 容	概 要	航空機部品に使用される熱硬化性 CFRP のオートクレーブ成形時には、表面仕上げなどの理由からカウルプレートと呼ばれる治工具（当て板）が使用されており、離型性能が求められている。このため、カウルプレートの候補材料として熱可塑性 CFRP 及び熱可塑性樹脂板を使用し、熱硬化性プリプレグをオートクレーブ成形後、離型性能を評価した。
	従来技術・ 競合技術 との比較 （優位性）	従来の治工具は、オートクレーブ成形前に手作業で離型剤を毎回到塗布し、乾燥作業が必要であるが、熱可塑性 CFRP 及び熱可塑性樹脂板は離型性が高く、離型剤の塗布及び乾燥作業を必要としない。また、DLC 膜に比べ耐久性が良く、製造コストが安価である。
	本技術の 有用性	離型剤塗布作業、乾燥作業が不要となる。
関連情報 （図・表・写真等）		 <p>熱可塑性 CFRP PEEK      熱可塑性 CFRP PA66      熱可塑性樹脂板 PEEK      熱可塑性樹脂板 PPS</p> <p>離型後の治工具ならびに成形品の表面はすべて滑らかであった。</p>
適用可能製品		熱硬化性 CFRP のオートクレーブ成形におけるカウルプレート
技術 シース 保有者	氏名 所属・役職	西垣康広 次世代技術部 道家康雄 技術連携部門
技術 シース 照会先	窓口 TEL/FAX e-mail	岐阜県産業技術総合センター 0575-22-0147 / 0575-24-6976 soudan@gitec.rd.pref.gifu.jp

■知的財産 無

■試作品状況 無 提示可 提供可

作成日 2019 年 5 月 1 日